

2024年・3月・25日



発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス 3月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com

 フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>

 2丁目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★久利会長 友愛提携50年でシンポジウム

沖縄と兵庫の友愛提携の意義を再確認し友愛関係を強化しようと、両県の友愛提携50周年を記念した沖縄県主催のシンポジウムが3月9日、那覇市内でありました。KOBE三宮・ひと街創り協議会の久利会長が基調講演され、『『KOBE夢・未来号・沖縄プロジェクト』がつなぐ神戸と沖縄との絆』と題して、

プロジェクトに込めた思いや沖縄への感謝、今後の交流継続への意欲を語られました。上記のプロジェクトでは神戸の児童養護施設の子供さん達を沖縄へ研修旅行にお連れし、沖縄美ら海水族館の見学や神戸出身で沖縄戦当時の最後の官選知事であった故島田叡氏等を慰霊する「島守の塔」の参拝なども行っています。

「初日と帰る日では子供さん達の顔つきが違う」と述べられ、「沖縄の皆さんが神戸の子供さん達に温かいまなざしを向けてくれている。沖縄の方々のチムグクル（真心）、協力に感謝したい」と語られました。パネルディスカッションもあり、久利会長の他、元沖縄県副知事の嘉数昇明氏、沖縄美ら島財団の花城良廣理事長らが登壇され、今後の交流の在り方などについて意見を交わされました。このプロジェクトは既に今年で16回目となり、そこに街衆の強い思いが表わされています。今後とも沖縄と兵庫の強い絆が続き、更なる人的交流が進めば素敵ですね。



★首里城と琉球王国 兵庫県立歴史博物館

上記の記事の中でも触れましたが、兵庫県と沖縄県が友愛提携協定を結んで50年の月日が経ち、両県では今日までに各方面で活発な相互交流が推進されています。沖縄ではシンポジウムが開催されましたが、兵庫県立歴史博物館では3月16日から特別展「首里城と琉球王国」を開催しており、早速拝見してきました。特別展は4部構成になっており、首里城をはじめとした南西諸島のグスク（城）や琉球王国の社会のしくみが分かる歴史資料のほか、近世琉球の文化を象徴する美術工芸品、琉球の風土に根ざした民俗資料などを展示し、琉球・沖縄の歴史・文化を紹介しています。また、現在進められている首里城の復興のようすも取り上げています。



神扇

様々な資料の中で印象に残ったのは「ノロ」と呼ばれる琉球王国で、支配者によって任命された地域の女性神職者の存在でした。村落の祭祀を司った存在であり、現在まで残っている地域もあるのだそうです。琉球には古来、村落の五穀豊穡や平和を願って祈りを捧げる神女がいました。それが女性であるのは、琉球に古くからあった、姉妹が兄弟を霊的に守護するという「おなり神信仰」に通じるもので、ほとんどすべてのグスクに拝所（うがんじゅ）が設けられ、聖地であり、祈りを捧げる場所である御嶽（うたき）が各地にあることから、当時の人々が神への祈りを大切にしていたことがわかります。つまり、その祭祀を司る神女はとても重要な存在だったといえます。ノロが手にする正装具の一つである「神扇」の美しさは秀逸でした。その他にも多くの興味深い風習やそれにまつわる展示品もあり、例えば「ティンゲー」と呼ばれる龍頭を象った祭具は、沖縄の葬列でこ



ノロ

れを掲げ、故人様の「龕（ガン）」という棺を担ぎながら火葬場まで運ぶ際に使用されたものであり、ご遺体を守る役割があるようです。そして現在、再建途上にある首里城ですが、14世紀中葉に初めて築城され、何度も焼失し、2019年の火災後、2026年秋の復活を目指しています。古くから中国による冊封体制と薩摩藩とのほごまで苦しんできた琉球王国ですが、その苦しみはこの首里城の歴史を振り返る時に、現在も世界のパワーバランスの中で揺れ動く沖縄の苦しみと同じ気がしています。

兵庫県立歴史博物館：兵庫県姫路市本町68番地 TEL 079-288-9011 FAX 079-288-9013

<https://rekihaku.pref.hyogo.lg.jp>

(特別展は5月12日(日)迄開催)

★4月2日は世界自閉症啓発デー *Light it up blue!*

自閉症をはじめとする発達障害について知っていただくこと、理解をしていただくことは、発達障害のある人だけでなく誰もが幸せに暮らすことができる社会の実現につながるものと考えています。そのため日本でも世界自閉症啓発デー・日本実行委員会が組織され、自閉症をはじめとする発達障害について広く啓発する活動を行っており、毎年、世界自閉症啓発デーの4月2日から8日を発達障害啓発週間として、シンポジウムの開催やランドマークの“ブルーライトアップ”等の活動を行っています。今年も1丁目の大型スクリーンで啓発の動画が流される他、2丁目ではナイトミュージアムの光が青に変わります。世界各地のランドマーク的な建物が青く照らされ、人々の自閉症への関心を高めています。もし皆様も2日に青く照らされている建物を見られた時は是非、あなたの「身近」などところにおられる自閉症の方々への理解を深めて頂ければ幸いです。



★2024年4月から改正障害者差別解消法が施行されます

皆様は障害者差別解消法をご存知でしょうか。この法律は、行政機関や民間事業者が、障がいのある人に対して「障がいを理由としてサービスの提供を拒否することや、場所や時間帯を制限することなど」を禁止しています。また、障がいのある人から何らかの配慮を求める意思表示があった場合に、負担が重すぎない範囲で対応する「合理的配慮の提供」について、民間事業者も努力義務から「義務」となります。合理的配慮とは、例えばく目の不自由な人が店に来られた場合、店員が代わりにタッチパネルでの注文を行う、く耳の不自由な人が店に来られた場合、筆談で会話する、くことが考えられます。障がい者から合理的配慮について求められたが、どのように対応したらいいかわからないなど、神戸市では事業者の皆様からの相談を受付けていますので、ご不明な点がありましたら下記までお問合せください。皆様のご理解とご配慮で、障がいのある方が少しでも暮らしやすい社会になりますよう、ご協力をお願い致します。

神戸市「障害を理由とする差別に関する相談窓口」

電話：078-322-0310（平日8時45分～12時00分、13時00分～17時30分）

FAX：078-322-6044

メール：syogai_sabetsu@office.city.kobe.lg.jp

窓口での面談は事前予約制 神戸市HP（障害者差別解消法）には右のQRコードから



★編集後記

今日4日の東京株式市場で、日経平均が史上初めて4万円を超えました。株価が低迷するよりは高いに越したことはないものの、経済の実感としては「熱気」からは程遠い感じがします。AI（生成人工知能）などにも通ずる半導体関連産業の勢いは熊本に進出した台湾の工場がもたらす特需を見ても明らかですが、この様な「熱気」はこれからピンポイントに発生することはあっても日本全体に広がっていくにはまだまだ時間が掛かる気がします。私達商人は一時的な、ある意味ギャンブル熱に浮かれてしまうのではなく、一人一人のお客様に心を込めて真摯に対応する事が基本であるという信念を持ち、人対人のアナログ的な付き合いを続けて行かなければならないのでしょう。

美しい街 共に歩む

ビルメンテナンスつるかめ管財株式会社 078-371-3589

